釧路森林資源活用円卓会議（第１回　川上部会）について

１．開催日時　　平成２２年１２月２２日（水）　午後１時～３時
２．開催場所　　阿寒町行政センター３階大会議室。
　　室内検討後、市有林（釧路市阿寒町布伏内）での現地検討を実施。
３．参加人数　　委員１１名、オブザーバ６名、事務局７名
４．会議の概要
・　地域特性に応じた森林施業とコスト削減策などを検討する「川上部会」の第１回目。
・　川上部会長は釧路地方林産振興会会長、大澤木材の大澤友厚氏。
・　第１回のテーマは、「釧路地域に相応しい路網（森林作業道等）の作設・管理」。
・　市有林内に作設した、簡易で耐久性のある作業道を見学しながら、現地検討を行った。
・　作設は、日本各地で導入されているザウルスロボ（松本システムエンジニアリング株式会社製）の改良版で、伐採機能も併せ持つ「フェラバンチャーザウルス」で実施（伐採の実演も行った）。本機は、大澤木材による試験的な導入機（全国初、未市販）。

５．会議での意見
・　ブルドーザ（トラクタ）による全木集材では、作業道の路肩が削れてしまう。
・　釧路地域では、黒ボク土が多く、石などは少ないので、作業道をつけるときに苦労する。
・　雨水が路面を流れ、土を洗屈してしまうのを避けるために、波型線形が有効。
・　転石などがない場合、作業道作設時の伐採木を利用した洗い越しを行うことも出来る。
・　路網密度は８０m/ha 程度つけ、伐倒した木を「上げ荷」または「下げ荷」で作業道から機械で集材できる範囲を広げることで作業効率がよくなり、森林所有者への還元に繋がる。また、機械作業を増やすことは、作業員の労働安全上も有効ではないか。
・　作設時に、有機物と無機物をきっちり分けて、転圧しながら作ることが大事。種子の混ざった有機物層からは次年度には植生が生えてくる。
・　伐根の埋込時に路面から高めに根株が出るようにすることは、ハーベスタが傾斜地で作業をしバックした際に当たれば、ストッパーになり、危険信号の意味でも役立つ。

室内での会議の様子

大澤部会長による作業道作設の現地説明